

## EUSI メールマガジン Vol. 092

### 「ギリシャ危機にみる経済思想の対立」(土田陽介)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 074】

##### 「ギリシャ危機にみる経済思想の対立」

土田陽介 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 調査部研究員)

筆者は銀行系の民間シンクタンク(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)のエコノミストであり、主に欧州経済の調査分析を担当している。

前置きが長くなって恐縮だが、10年以上前の話になる。一橋大学経済学部の3年次、筆者は、地中海経済史を専門とされる大月康弘助教授(現教授、経済学部長)のゼミナールに所属していた。

当時、大月先生のお話で、一橋大学の西洋経済史のゼミを卒業した諸先輩方には、とりわけ銀行のエコノミストとして活躍された人が多いという話を聞いた記憶がある。筆者もまたその流れの末端を担えているとしたら、これに勝る喜びはない。

さらに筆者は、就職以来、一貫して欧州経済(当然それ以外の経済も担当はしたが)を分析するという「幸運」にも恵まれている。こうした経緯のなかで、今回、このメールマガジンを執筆する機会を頂戴したわけである。

さて本論に転じたいが、近年、欧州経済の動向を分析していて実に印象的なことがある。それはギリシャ危機を巡って繰り広げられる経済政策論争であり、言い換えれば、そこに伝統的な経済思想の対立がうかがえるということだ。わが国でも欧州経済の専門家、国際金融の専門家、有識者などが侃々諤々となり、ギリシャ危機に対するそれぞれの見解を述べ、議論を繰り広げてきた。

極論をいえば、それはギリシャを見捨てるべきであるとする自己責任論と、ギリシャを救済すべきであるとする連帯責任論に二分化される議論であったとも整理できる。

前者はリバタリアン的であり、後者はコミュニタリアン的であるともいえる。この「二極の解」の間で、専門家や有識者のスタンスは濃淡が分かれたともいえるだろう。

リバタリアンの発想に立てば、ギリシャの自己責任論に好意を寄せることになる。つまり、ドイツのショイブレ財務相のスタンスにシンパシーを持つわけである。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol74.pdf>

## 【EUSI イベントご案内】

### 1. 第8回一橋 EU 法研究会

日時: 2016年5月21日(土) 14:00-17:00

場所: 一橋大学 (国立)東キャンパス マーキュリータワー5階 EUSI 会議室

引馬知子 (田園調布学園大学・EU 社会政策)  
「国連の障害者権利条約の EU の批准と審査」(仮)

大西楠・テア (EU 移民政策・ドイツ法)  
「ヨーロッパ人権条約、EU 法、ドイツ国内法の交錯 退去強制における人権保障を素材として」

<https://sites.google.com/site/eulaw1284/2016nian-duno-yan-jiu-hui-yu-ding>

参加: 参加をご希望の方は、一橋 EU 法研究会にご入会下さい (以下 HP 参照)

主催: 一橋 EU 法研究会

<https://sites.google.com/site/eulaw1284/research>

### 2. 慶應義塾大学・嘉治佐保子先生より以下のご案内が届いています

#### (1)「Global Economic Outlook - Navigating Uncharted Waters」

※トリシェ元 ECB 総裁が登壇されます

日時: 2016年5月17日(火) 16:00-18:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 北館 1階ホール

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/2016/4531>

参加: 事前登録要 (下記 HP で事前登録をお願いいたします)

<http://goo.gl/forms/t6t2T9M0DW>

#### (2) 日伊修好 150周年カンファレンス「The Economics of Italy and Japan: Historical Development and Future Policies for Stability and Growth」

日時: 2016年5月23日(月) 10:00-16:15

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 北館 1階ホール

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/2016/4513>

参加: 事前登録不要です (念のため下記 HP で事前登録されますと幸いです)

<http://goo.gl/forms/ONU13bYVV8>

### 3. 青山学院大学・羽場久美子先生より ISA 国際会議のご案内が届いています

現在、International Studies Association(ISA: 世界国際関係学会)は、来年のワシントンでの世界大会での報告者を募集しております。

大テーマは「Understanding Change in World Politics」となっています。  
サブタイトルは数多くあり、国際政治、地域政治、地域統合に関するいかなるテーマ報告でも可能です。Call for proposal には申込前に会員登録が必要です。

ISA's 58th Annual Convention  
February 22-25, 2017, Baltimore, Maryland

近年、中国や ASEAN の成長に押されて、日本からの参加者が減っておりますが、特に中堅、若手、女性の参加が世界的に期待されており、日本からの参加も

大変待たれております。先生方には、ぜひ、若手の方々を連れて、ご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

若手の場合には、申請すれば、参加費補助が出ます。また、日本国内の学会でも、若手研究者の場合補助が出る事が多いので、ぜひ奮ってご参加ください。6月1日が締め切りですので、連休中にご検討いただき、5月中旬をめどに、申し込んでいただければと存じます。パネルでも、個人でも、応募できます。

またISAは、様々のBook Awardや、若手のArticle Awardも設けており、英語で著書を書かれた方、また英語の論文を出された方は審査の結果、国内外限らず表彰され、賞金が出ます。一昨年は日本の著書(英語)2冊が審査に残りましたし、昨年は復旦大学の研究者も賞を獲得していました。ぜひ、積極的に、報告希望、Travel Fund, Book & Article Awardに応募していただければと思います。

まだ国際会議で報告したことがない若手研究者・非常勤の方を含め、ぜひご参加ください。できるだけサポートさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

<http://www.eusa-japan.org/?p=1321>

羽場久美子 (青山学院大学、ISA Vice President (2016-17))

#### 4. 駐日 EU 代表部より「欧州留学フェア 2016」のご案内が届いています

京都会場

日時: 2016年6月11日(土) 12:00-18:00

場所: キャンパスプラザ京都

東京会場

日時: 2016年6月12日(日) 13:30-19:00

場所: 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 2F・グローバルフロント 1F

参加: 無料・事前登録不要 (ただし事前登録された場合は全員に EU グッズを贈呈)

主催: 駐日 EU 代表部、欧州委員会教育・文化総局

共催: Campus France、仏大使館、DAAD、明大、京都市、大学コンソーシアム京都

「欧州留学フェア」では、欧州 17 カ国の大学・高等教育文化機関・大使館が合計 58 ものブースを出展し、欧州が提供する様々な留学・高等教育プログラムを紹介します。

また各ブースでの説明や紹介のみならず、欧州留学の奨学金に関するセミナーや欧州留学経験者によるパネルディスカッションが開催されます。

海外留学やヨーロッパでの勉強に憧れる皆様、ぜひ足を運んでみてください。

「欧州留学フェア」2016 公式 HP:

<http://www.ehef-japan.org/>

2014 年度「欧州留学フェア」の様子:

<http://www.euinjapan.jp/media/news/news2014/20140523/160643/>

2013 年度「欧州留学フェア」の様子:

<http://www.euinjapan.jp/media/news/news2013/20130522/143522/>

#### 【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

「浚渫作業にかかわる EU 自然生息地指令の実効性確保」

【EU 法における先決裁定手続に関する研究(16)】  
『自治研究』第 92 巻第 5 号(2016年5月) 94-104 頁

小串聡彦 (EUSI 研究員)

「EU 離脱後に英国が迫られる選択 (2) ノルウェーになるか、カナダになるか？」  
(「ブリュッセルの政治動向分析」、2016年4月27日)

<https://toshihiko-ogushi.com/2016/04/27/>

小串聡彦 (EUSI 研究員)

「EU 離脱後に英国が迫られる選択 (3) 日本への影響？」  
(「ブリュッセルの政治動向分析」、2016年5月2日)

<https://toshihiko-ogushi.com/2016/05/02/>

【EU に関する新刊紹介】

宮下雄一郎『フランス再興と国際秩序の構想 第二次世界大戦期の政治と外交』  
(勁草書房、2016年4月15日刊行)

<http://www.keisoshobo.co.jp/book/b215003.html>

本書の著者である宮下雄一郎先生より、本書のご紹介を頂きました。

---

第二次世界大戦が終わって約 70 年が経った。だが、日本と中国との間、あるいは日本と韓国との間の関係を見れば一目瞭然のように、その「傷跡」はまだまだ癒えていない。私たちは現在も「ポスト第二次世界大戦」の世界のなかで生き、日本人は「あの戦争」といえば、太平洋戦争を思い浮かべるのだ。

戦争史は様々な角度から研究することが可能である。

上記のように、「傷跡」が消えない理由を探る研究もある。慰安婦問題がその典型的な例であろう。あるいは、参戦した各国の社会の様相、外交などを分析することが可能であろう。

そのようななか、本書は国際秩序構想に焦点を絞り、フランスを軸に議論を展開した。ようするに、戦時期のフランス人はどのような戦後を「理想」として描き、それが「現実」にどう翻弄されたのかという問題提起を行ったのである。

本書の背景には、「理想」と「現実」との相剋という国際政治論における主要な命題がある。戦争とは国家が理想を実現するために起こす人間の営みといえよう。このような戦争に対する見方によって執筆を進めた。

では、なぜフランスなのか。それは、戦時期フランスの特異な状況に、政治学の範疇に属する問題が数多く見られるからだ。

1945年に戦勝したフランスだが、遡ると1940年の敗戦に辿りつく。戦後への影響という点ではこの敗戦が戦勝に劣らず大きい。1940年の敗戦を契機に、それを受け入れ、ドイツを軸としたヨーロッパ秩序を甘んじて受け入れようとした枢軸陣営寄りのヴィシー政府のほか、敗戦、並びにドイツを中心とした秩序を拒絶し、徹底抗戦を貫いた自由フランスなど抵抗運動が存在し、各々が「正統なフランス」を主張するに至ったのだ。

国際政治アクターとしてのフランスは分裂し、陣営を問わず地盤沈下する「フランス」という括弧付きの状況に陥ったのである。

そうした厳しい現実のなか、ド・ゴールを筆頭に自由フランスの指導者は、理想的な戦後国際秩序にフランス再興の夢を託したのである。その「理想」の

なかに「西ヨーロッパ統合」構想があった。

...

(続きはこちら↓)

<http://eusi.jp/outreach/outreach-report/miyashita-2016/>

宮下雄一郎 (松山大学法学部准教授)

## 【EUに関するニュース】

- 2016年4月15日 英 EU 残留・離脱を問う国民投票、正式なキャンペーン期間開幕。残留派・離脱派ほぼ拮抗
- 2016年4月16日 モゲリーニ上級代表ら、イラン訪問。包括的共同行動計画(JCPOA)履行や地域情勢等協議
- 2016年4月16日 EU・ガーナ、移民に関するハイレベル対話。ヴァレッタ宣言・行動計画に基づく協力協議
- 2016年4月16日 エクアドルで M7.8 地震、650 人超犠牲。翌日欧州委員会、100 万ユーロを人道支援に拠出
- 2016年4月17日 欧州委員会、アフリカ・サヘル地域の難民対策として 2.8 億ユーロ規模の 20 の新措置発表
- 2016年4月18日 モゲリーニ上級代表、イエメンでの停戦発効を歓迎、当事者らの信頼関係構築を促す声明
- 2016年4月18日 英財務省、EU 加盟・離脱の長期的な経済的影響に関する報告書。離脱は恒久的打撃と警鐘
- 2016年4月18-19日 EU 外務理事会、中央アフリカ共和国軍事訓練ミッション承認や難民対策進捗など協議
- 2016年4月19日 モゲリーニ上級代表、パレスチナ支援委員会(AHLC)会合開催。緊張の憂慮や経済支援協議
- 2016年4月19日 欧州委員会、欧州産業のデジタル化に向け、投資やクラウド構築含めた包括的政策を提示
- 2016年4月19日 欧州委員会、「トルコのための難民ファシリティ」に基づき 1.1 億ユーロの難民支援拠出
- 2016年4月19日 欧州委員会、ギリシャにおける難民生活状況改善のため 8300 万ユーロの人道支援拠出
- 2016年4月19日 アフガニスタン国家保安局(NDS)付近でテロ、64 名犠牲。EU 報道官、テロ対策連帯の声明
- 2016年4月19日 カーニー英中銀総裁、EU 離脱は英経済に悪影響と議会証言、前日の財務省報告に概ね同意
- 2016年4月19-20日 欧州委員会、欧州文化フォーラム開催。モゲリーニ上級代表、EU の文化外交戦略演説
- 2016年4月20日 欧州委員会、真の「EU 安全保障同盟」構築に向け、主にテロ対策に関する政策文書採択
- 2016年4月20日 欧州委員会、携帯メーカーに自社サービス搭載を要求した件で Google 社に異議告知書通告
- 2016年4月20日 NATO・ロシア理事会開催。ウクライナ情勢やミンスク合意遵守、アフガニスタン問題協議
- 2016年4月20日 財務省貿易統計、3月対EU貿易(速報値)は輸出 7903 億円、輸入 6835 億円で6カ月ぶりに黒字
- 2016年4月20日 Eurostat、2015年にEU28加盟国は33万3350名の庇護申請者に保護地位認可。前年比72%増
- 2016年4月20-21日 日・EU ビジネスラウンドテーブル年次会合、EPA 早期妥結等の提言書採択、首相に提示
- 2016年4月21日 ECB 理事会、金利据置きを決定、6月より量的緩和拡大の一環でユーロ圏の社債購入を開始
- 2016年4月21日 EU 理事会、テロ防止や捜査・起訴のため乗客予約記録(PNR)情報の使用を認める指令採択
- 2016年4月21日 Eurostat、2015年度財政赤字はユーロ圏19カ国対GDP比2.1%、EU28カ国同2.4%で共に減少
- 2016年4月22日 昨年12月合意の気候変動に関するパリ協定署名式、シェフチョビチ欧州副委員長ら署名
- 2016年4月22日 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ)、ギリシャ問題や単一監督メカニズム年次報告等協議
- 2016年4月22日 オバマ大統領訪英、英米首脳会談で英 EU 残留支持。離脱なら英は貿易交渉で後回しと言及
- 2016年4月22日 EUISS(EU 外交研究機関)年次会議。モゲリーニ上級代表ら、EU 新世界戦略策定に関して演説
- 2016年4月22-23日 EU 経済・財務理事会会合、財政健全化ルール簡素化検討で一致、特に歳出ルール重視へ
- 2016年4月23日 トゥスク議長・ティメルマンス第一副委員長・メルケル独首相、トルコ難民キャンプ視察
- 2016年4月23-24日 G7 新潟農相会合、ホーガン農業担当欧州委員参加。食糧安全保障強化に向けて協議

- 2016年4月24日 セルビア総選挙、与党勝利、2019年までにEU加盟目標。モグリーニ上級代表ら祝意の声明
- 2016年4月25日 EEC・チュニジア協力協定締結40周年。モグリーニ上級代表、同国との協力関係讃える声明
- 2016年4月25日 EU、香港・マカオに関する2015年度報告書発表。選挙制度改革停滞や表現の自由抑圧憂慮
- 2016年4月26日 チェルノブイリ原発事故30周年。欧州委員会、原子力安全基金に2000万ユーロを追加拠出
- 2016年4月26日 欧州委員会、難民の自立に向けた多様な方策「尊厳ある命 援助依存から自助自立へ」提示
- 2016年4月27日 欧州委員会、「北極に対するEUの統合的政策」提示。気候変動・環境など39もの施策含む
- 2016年4月27日 OECD、「英EU離脱の経済的結果」報告書発表。2020年までに英GDP3.3%押し下げると予測
- 2016年4月29日 Eurostat、1-3月GDP(季節調整済)はユーロ圏19カ国で前期比+0.6%、EU28カ国で同+0.5%
- 2016年4月29日 Eurostat、3月失業率(季調済)はユーロ圏19カ国10.2%、EU28国8.8%で共に前月比-0.1%
- 2016年4月29-30日 アンシブ欧州副委員長(デジタル単一市場担当)来日、G7情報通信担当大臣会合参加
- 2016年4月30日-5月3日 カニエテ欧州委員(気候変動・エネルギー担当)来日、G7エネルギー大臣会合参加

### 【編集後記】

今回の巻頭エッセイは三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査部の土田陽介研究員にご執筆いただきました。

土田研究員は一橋大学経済学部を卒業した新進気鋭のエコノミストです。ご自身でも書かれているように、大学では西洋経済史を専攻されています。一貫して現実の欧州経済の分析を行っておられますが、その背景には経済史的な視点があり、また経済思想の対立軸への目配りがなされていて、今回の論稿も深みのある内容となっています。こうした多角的な分析によって、現実の経済政策についての議論や提言が説得力を持つのではないのでしょうか。かつてのIMFがコンディショナリティーを前面に出して各国の経済政策に注文を付けていたことを考えると、現在のIMFがコミュニタリアン的な経済観へ転換したとの指摘は非常に興味深いものがあります。リバタリアン的なドイツに対抗するフランスの出身であるラガルドIMF専務理事のイニシアティブかと考えたいところですね。

安倍総理がサミット前の政策協議のために訪欧しましたが、独、仏、英の経済政策に対するスタンスの違いも見えてきました。サミットを成功に導くということもさることながら、国際的な政策協調を進めるためにも、多角的な視点に立ったバランス感覚が一層求められることになると思われます。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

先週英国では統一地方選挙が行われましたが、その中で最も注目されたもののひとつが、ロンドン市長選挙でした。

保守党候補のザック・ゴールドスミス(41)氏は、大富豪ゴールドスミス家の御曹司で、カースルレー英外相を祖先に持つ華麗なる政治家の家柄の出身。対する労働党候補のサディク・カーン(45)氏は、貧しいパキスタン移民の子で、苦学の末に人権派弁護士として活躍したイスラム教徒。このような非常に好対照な二人の候補者を中心に選挙戦が繰り広げられました。

ゴールドスミス陣営は、カーン候補に対してイスラム原理主義者との繋がりを彷彿させるネガティブキャンペーンを展開し、このことが人種差別主義的であると非難されて却って人心の離反を招くことになりました(またこの選挙戦については、ロンドン在住の免疫学者・小野昌弘氏による大変興味深い論考が

ございますので、こちらに譲りたいと思います)  
選挙の結果、サディク・カーン氏はイスラム教徒で初めて EU 加盟国の首都の市長として当選しました。ですが本来、8年前のオバマ大統領の時のように「黒人として初めて」や、サッチャー英首相の時のように「女性として初めて」という報道等によく使い回された表現は、本質的には適切なものではなくなるべきかもしれません。  
「ロンドン市民が恐怖より希望を、分断より団結を選んだことを誇りに思う」  
当選後のカーン氏のこの勝利演説には、大変力強いメッセージが込められているように感じられます。多数派とは異なる民族や宗教に対して抱く不安や嫌悪感よりも、その候補者本人が持つ個人的資質の方をきちんと見極めた上でロンドン市民は選択を示したといえるでしょう。  
今後英国では、国民投票に関する運動がさらに加速することになるでしょう。はたして英国国民がどのような決断を下すのか、まだ読み切ることはできませんが、英の EU 残留・離脱を問う彼らの決断が世界に対してどのようなメッセージを発するのか、関心を持って見てみたいと思います。

小野昌弘「ロンドン市長選で労働党候補カーンが勝利したことの意味」  
<http://bylines.news.yahoo.co.jp/onomasahiro/20160508-00057445/>

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo  
〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局  
TEL: 042-580-9117 / E-mail: [info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp)

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら  
E-mail: [info@eusi.jp](mailto:info@eusi.jp)

---